

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

今年ほど「おめでとう」という言葉を素直に口から出すのを躊躇する年はないと思います。昨年被災された方々のことを思えば、当然のことと言えましょう。被災された方々の悲しみや苦痛を、全国の国民がなんらかの形で共有しているからです。

昨年で思い出すのは、震災による原発停止に伴い、東京地区等でも電気の供給が一時止まり、計画停電なる試みが続きましたが、国民の誰もが文句を言わず、上手に適応していたことです。皆で電気をできるだけ使用しないよう節電運動を展開し、電力不足が騒がれていたあの夏を見事に乗り切ってしまったのです。「日本人って、相変わらず大したもんだ」と思った方々も多かったことでしょう。

私は、この世知辛い現代の日本社会でも、自己の利益だけを求めるのではなく、回りの人たちにも配慮して、思いやりのある生活を共に過ごすという「共生の考え方」が十分根付くものと確信したものです。

震災後の初めての政府予算案が先月出ました。ですが、2012年度一般会計総額約90兆円うち、その49%が国債（借金）ということに、皆さんはどう思いますか。そして国の借金がGDPの2倍にあたる1000兆円を超えるとのことです。毎年、毎年このような借金をベースにした予算を組んでいます。このツケを未来あるこども達に回し続けて果たしていいのでしょうか。この負の連鎖を断ち切るために、今回の震災の経験を国民全体で活かす覚悟をする時がもうすぐ来るのではと思っています。

無駄をしない、エネルギーも多くは利用しない、あまり物質的な繁栄を求めない、あまり流行を追わない、出来るだけ自然の中で過ごす、出来るだけ自給自足（国内製品の購入）を心がける、身近なところでは、キュウリは曲がったもので十分云々・・・てなことを書くと、「消費が冷え込んでますますデフレ社会から抜け出せなくなる」と一部の方々から怒られそう。でも、やはり自然のなかで（環境に配慮して）、エネルギーの消費量を抑え、回りのコミュニティを大事に（地域の高齢者を大事にして）、家族と一緒に時間を増やし、心穏やかでゆとりのある生活が過ごせるようになりたいものです。

現在の日本社会が陥っている経済主体の価値基準をできるだけ早く転換できないものかと思っています。国民の生活がどんどん悪くなる経済構造、価値基準は、やはり早く変えないといけません。たぶん、如上の「共生の考え方」が根付けば、ひょっとして社会は変わるのでは、と思っています。

それを気づかせてくれたのが、震災後、様々なメディアで取り上げられている宮沢賢治の「雨ニモマケズ」という詩です。皆さんはもうご存知でしょうから、私が気にいっているフレーズのみを抽出します。

・ ・ ・ ・ ・	
慾ハナク	(慾はなく)
決シテ瞋ラズ	(決して怒らず)
イツモシヅカニワラッテキル	(いつも静かに笑っている)
・ ・ ・ ・ ・	
アラユルコトヲ	(あらゆることを)
ジブンヲカンジョウニ入レズニ	(自分を勘定に入れずに)
・ ・ ・ ・ ・	
東ニ病氣ノコドモアレバ	(東に病氣の子供あれば)
行ッテ看病シテヤリ	(行って看病してやり)
西ニツカレタ母アレバ	(西に疲れた母あれば)
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ	(行ってその稲の束を負い)
南ニ死ニサウナ人アレバ	(南に死にそうな人あれば)
行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ	(行ってこわがらなくてもいいといい)
北ニケンクワヤソショウガアレバ	(北に喧嘩や訴訟があれば)
ツマラナイカラヤメロトイヒ	(つまらないからやめろといい)
・ ・ ・ ・ ・	
ミンナニデクノボートヨバレ	(みんなにでくのぼーと呼ばれ)
ホメラレモセズ	(褒められもせず)
クニモサレズ	(苦にもされず)
サウイフモノニ	(そういうものに)
ワタシハナリタイ	(わたしはなりたい)

飛び飛びの記述ですが、十分その意図が伝わってくると思います。文学的にはこの詩の評価は分かれ、また語彙の解釈でも議論があるそうですが、この詩人の精神性の高さは群を抜いていると言えます。この詩は、賢治が35歳の時、東京で過労のため倒れ、死を覚悟していた時に作られた詩だそうですが、皆さんは読まれてどう感じられたでしょうか。私はまず、最初の「欲はなく、決して怒らず、いつも静かに笑っている」という言葉に驚かされます。そして「あらゆることを 自分を勘定に入れず」という2行には、賢治の心の豊かさが浮かび上がっていると思います。さらに極みつけが、「みんなにデクノボーと呼ばれ、褒められもしなくても、私はそういう人になりたい」という言葉です。こんな素晴らしい詩を書ける先人を我々は持っているのです。我々が震災を経験して学んだ「共生の考え方」をまさに具現化しているこの詩の思いを再認識して、我々の日本を変えていきましょう。

そこで、私も、賢治を踏まえて、厚かましくも久しぶりに詩を書いてみます。

裏側にあるもの

ある時、気がついた

それは“目に見えないところ”に富があるということ

あるいは“耳に聞こえない言葉”が世界を圧倒的に牛耳っていることを

そうなんだ、目の前にあることに囚われたり

人が話していることを聞いては

いつまで経ってもこの世の中のことは分からないんだ

レオナルドやフェルメールの絵も同じ

みんな仕掛けのなかで動いている

表層の裏側でいろいろなものが蠢（うごめ）いているんだ

普通の人たちが喜んだり、悲しんだりしている姿を

楽しんでいる奴らはその裏側で

あらゆることに気を配って生きている

でも大丈夫、そういう奴らには絶対得ることができない天空がある

『あらゆることを 自分の勘定に入れず みんなにでくのぼーとよばれ

褒められもせず そういうものにわたしはなりたい』という銀河さ

今年も先が見えない不透明感が漂う年になりそうですが、「共生」をキーワードにして、持続可能な社会作りに向けて、取組んで参ります。

引き続き、皆様方の温かいご愛顧をお願い申し上げます。

平成24年元旦

株式会社サイモンズ

代表取締役社長

斉川 満

